複合化した施設としての改築

複合化に当たっては，十分な安全性が確保されるよう配慮した計画とした。

例えば，警備員常駐の総合案内所を施設利用者が必ず通る場所に設置し，また，職員室を図書館と隣接する一般の人の出入りの多い場所に配置し，廊下と高さ約１ｍのカウンターで区切られた見通しの良い空間とすることで，容易に不審者を中に進入させないよう工夫した。

オープン化され、多様な授業に対応可能な普通教室

３：特に留意した点

教室のオープン化などの平面的な工夫や，新築部分との調和を考え色調も合わせ統一感が図られた外壁塗装など，学社融合の趣旨に合致するよう計画した。

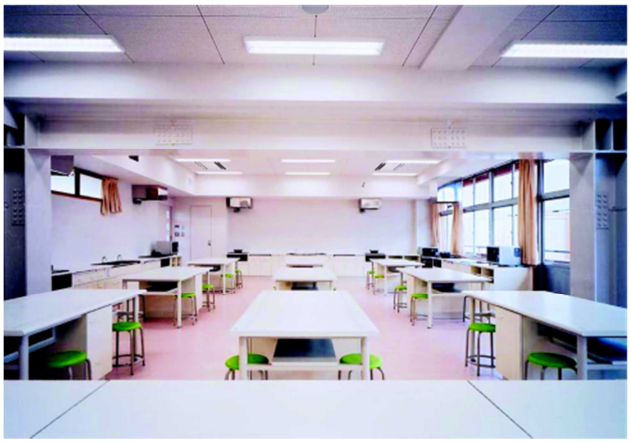
さらに，施設の有効活用を意識し，小学校の特別教室（音楽室・理科室・調理実習室・家庭科教室等）を，児童が利用しない夜間，休日及び長期休暇中には一般市民に開放するようにした。また，図書館の休館日でも児童が使用できるよう計画している。

４：成果と課題

複合化後１０年が経過したが，改修した部分は，改築した部分と比べても遜色なく使用できている。

また，地域社会（利用者市民等）との直接的なふれあいを通して，子どもたちの知恵，知識，社会性を育み，子どもたちが自ら学び自ら考える教育を推進することができた。

なお，安全管理面については，防犯カメラの設置及び人的配置により万全の態勢を取っているが，今後，関係職員や多くの利用者などの協力により，より一層の安全確保に努めなければならない。



教室の界壁を撤去した梁柱をＨ型鉄骨で補強した家庭科教室

改築部分

図書館と学校を緩やかに区切る職員室
（廊下側から撮影）

図書館やパソコン教室は
広く一般の人も活用するスペース

併設された遊学館
（合唱の練習中）

老人福祉施設用出入口

和室

玄関

4-2

余裕教室の老人福祉施設への転用による複合化

京都府

向日市立第４向陽小学校

１：背景

向日市は昭和３０年代後半から宅地化が進み，他地域からの転入が急増した京都府下最高の過密地域である。今後，着実に高齢化が進むことが見込まれるが，老人福祉施設は南部地域に１か所設置されているのみであり，利用者の増加により施設が手狭となり，北部地域への設置の要望が市民から寄せられていた。

一方，近年，児童生徒の減少により余裕教室が生じており，行政財産の効率的かつ有効な運用の観点から，余裕教室を地域の実情に応じて，生涯学習や社会福祉等の用途に積極的に活用することが重要であると考えていた。

２：取組内容

築２７年（当時）の校舎について，耐震補強を行うとともに，老人福祉施設に転用するための改修等を行った。

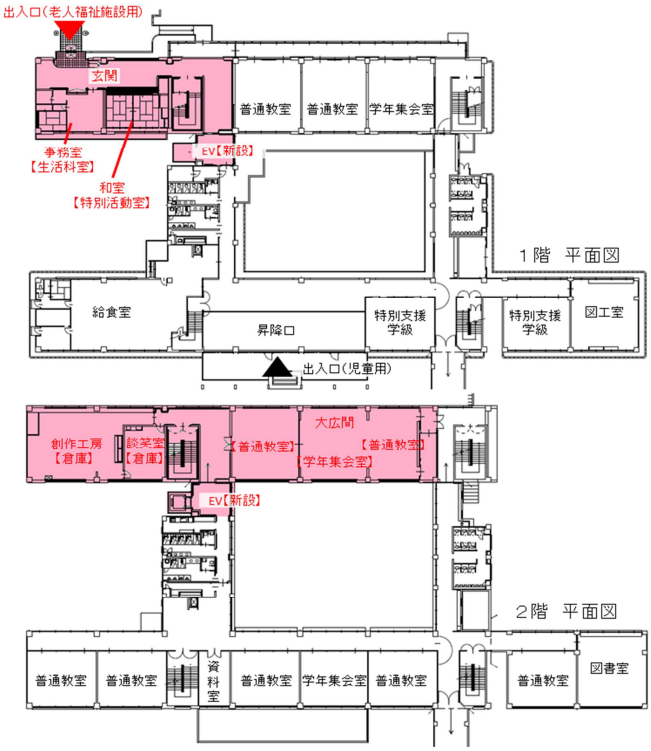
- ○　従来，学年集会室や倉庫として使用されていた余裕教室を老人福祉施設の事務室や陶芸・工芸等ができる創作工房，多目的な利用ができる大広間に改造
- ○　老人福祉施設に出入りするための専用玄関を設置
- ○　エレベータの設置，ライフラインの更新等
- ○　その他学校部分の改修（ランチルームの設置等）

工事費（工事面積）

小　学　校：１６８，６１２千円（１，３２３㎡）
老人福祉施設：１６２，５５７千円（９９３㎡）

３：特に留意した点

余裕教室の活用については，学校施設に不足が生じないことや児童の安全及び教育環境に十分配慮することが重要であり，学校教育の実施に支障が生じないよう，学校，保護者及び地域住民と協議を重ねた。



改修後の平面図
（ピンク色の部分が老人福祉施設，括弧内は転用前の用途）

また，児童と高齢者の動線と活動時間が異なることによって生じる相互干渉が懸念されるため，それぞれの施設が独立した運営を行えるよう動線を分離し活動範囲を制限しながら世代間交流が図れるよう計画した。

４：成果と課題

高齢者が児童に昔の遊びを教え，給食を一緒に食べるなどの機会が設けられており、豊富な経験や知識・技能を有する高齢者から，様々な生きた知識や生き方を学ぶことができることは，今日重視されている児童の体験学習の一層の推進に寄与できているものと考えている。

改修後１０年余り経過したが，新築と同様の使用感を持続させ，施設の長寿命化を図ることは行政の責務である。厳しい財政状況の中，今後もこのような複合化を進めることは有効であると考えられる。